

㊦ 忘れた。大変だ

年をとると忘れっぽくなります。それは仕方のないことだと思います。しかし、それがないとどうにもならないというものを忘れると大変です。私の忘れ物、それは卒業式のモーニングでした。

卒業式、それは学校にとって最も大きな行事です。職員と児童生徒が心を込めて卒業生を送り出すセレモニー、送られる側にとっては、最後の学習となる時間です。1人1人の思い出となり、これからもがんばっていこうという気持ちを育てるものにしようとして学校では早くから準備を始めます。そんな大切な儀式に欠かすことのできないモーニングを忘れたのですから大変でした。

その日、私はいつものように車で出勤しました。前日から準備してくれていたモーニング、ネクタイなど式服一揃い。

「ほかにいっぱい荷物があるのだから積んでくれたに違いない」というのは自分の勝手な思いであり、

「式の日大切な荷物、これは自分で積んだに違いない」
これは、妻の思いであつたに違いありません。

私は、そんな思いで国道24号線を走り、阪奈道路に入って間もなく、ひょっと後ろを振り返りました。

「アレッ？ ない！」

顔から血の気が引きました。どうしよう、今だったら携帯電話を使って連絡ということになりますが、そんなものがない時代です。公衆電話を探しました。やっとのことで見つけた公衆電話から、家に電話しました。

「もう、タクシーを呼んでます。来てくれたらすぐに持っていくから」という妻の声、とにかく学校に行くことにしました。学校に着きまし

た。まだ、子どもたちはほとんど来ていないという時間でしたが、校門には国旗が掲揚され、玄関には花が飾られています。

制服の規定があるこの学校では、男の子は焦げ茶色のブレザーと半ズボン、女の子は同じくブレザーとスカートで登校してきます。いつもキチンとしている子どもたちですが、儀式の日ということもあって一層きれいにアイロンが当たっているようです。先生方は、「6年生の担任は略礼服装程度、他の者はそれにつぐフォーマルなもので」という慣例にしたがっての出勤です。それにしても、「私のモーニングは今ごろどこを走っているのだろう」ちょっと心配になってきます。タクシー会社に電話してみると、「生駒に向かっていますが、今、電波状態の悪いところに入ったのか応答がありません」という返事です。まだまだ時間はたっぷりありますし、来賓の方々もお見えになっていないのでいいのですが、段々心配がつのります。

そんなとき、向こうにタクシーが見えました。教頭先生が「校長先生はじっとしていてください。私が預かってきます」と正門の方に行ってくれました。風呂敷に包んだモーニングの到着です。大急ぎで着替えました。やれやれ、これで一安心。市の教育委員会、中学校の校長先生、幼稚園の園長先生、PTAの役員の方々、地域の方々がお見えになったのは、それから少したってからのことでした。

式は無事に終わりました。6年生の子どもたちは教室で担任とのお別れを終え、全職員が職員室に集まりました。6年生の学年主任から職員へのお礼があり、私の方からもお礼を言って、この日のすべてを終わりました。いつもだとこれで終わりということになるのですが、この日は特別です。私の話はまだありました。

「今日、私は大失敗をしました。実は、モーニングを忘れて来たのです。すぐに気づいた妻がタクシーで持ってきてくれ、教頭先生が門の

ところに受け取りに行ってくれました。おかげで助かりました。早い目に出勤したのも幸いでした。人間、いつどんなことがあるか分かりません。失敗のないようにするとともに、もしかのとき、どうするかを考えておくことも大切だと思います」

先生方からは、

「そんなことがあったのですか。全く知りませんでした」

「早い目、早い目に行動される校長先生なのに、今日は着替えられるのが遅いなと思っていましたが、びっくりです」

そんな声を聞きました。

恥を忍んで言うと、失敗はこれだけではありませんし、2度と忘れてはいけないからとモーニングを着て出勤の途上で、後輪がパンク、必死になってタイヤ交換をして間に合ったもののズボンがどろどろといったこともありました。

「ゆとりをもって早い目、早い目に行動」というのは、いつどんなときでもとても大切なことであることが身に沁みた1日でした。